

ACT 試験、受験者数は10年連続で記録更新の一方で、

基礎学力向上が課題（8月20日）

大学進学準備度評価のための標準試験を運営する ACT は、年次報告書「大学進学・就職準備度の状態（Condition of College & Career Readiness）」を発表した。これによると、2014 年の高校卒業者の中で、過去最高となる 57%に相当する約 184 万人が ACT 試験を受験したという。これは、2013 年から 3%増、2010 年からは 18%増となり、同試験受験者数は 10 年連続で受験者総数が増加した上、同試験受験者の 86%は大学進学を希望していることが明らかにされた。

しかし、2013 年に高校を卒業した同試験受験者の 87%が大学進学希望者であったにもかかわらず、2013 年秋学期に実際に大学に在籍していたのは 69%のみで、30 万人超の学生が希望をかなえられなかったことも判明している。これは、ACT 試験の英語、数学、読解力、科学の 4 科目中、3 科目以上で ACT の定める大学準備度ベンチマーク以上の得点を取得した受験者が全体の 39%に留まる他、31%は全 4 科目でベンチマークを達成していないなど、大学進学に必要な基礎学力が不十分であることが一因と報告書は分析している。

また、複数年に亘り同試験を全生徒に受験させているコロラド州など 8 州では、平均点がいずれの州でも前年から上昇しており、このうち 5 州においては平均点が 0.2~0.3 ポイント増と顕著に上昇したという。なお、同試験を全生徒に受験させる州は、2013-2014 学年度に 3 州増加して 11 州となっており、2014-2015 学年度にはさらに 5 州が同試験を導入予定である。最後に同報告書は、大学進学準備のためのコア授業を高校で履修することを強く推奨している。

本報告書は、

<<http://www.act.org/research/policymakers/cccr14/pdf/CCCR14-NationalReadinessRpt.pdf>>からダウンロード可能。

ACT, ACT College Readiness Report Points to Growing Interest in Higher Education Among U.S. High School Graduates

<http://www.act.org/newsroom/releases/view.php?lang=english&p=3228>